

◆技術改良試験

クビレオゴノリ養殖試験Ⅱ

與那嶺 盛次

1. 目的

新養殖対象海藻として高価で需要の多いクビレオゴノリ(以後オゴノリとする)の海上養殖の可能性を検討するため、昨年度に引き続き養殖試験を実施した。

2. 材料及び方法

平成18年5月29日、羽地漁協藻類増殖研究会屋我地グループ3名とうるま市具志川照間地先で、母藻用としてオゴノリ約10kgを採集し使用した。オゴノリ養殖試験は、羽地漁協藻類増殖研究会の協力で実施した。

6月8日、県栽培漁業センターの屋外4トン水槽で採苗を実施した。まず、果胞子を持つ株を母藻として920g選り分け、日陰で約4時間干出した。屋外4トン水槽にウミギクガイの貝殻(以後貝殻コレクターという)約300個敷き詰め海水をためて、前述の母藻920gを貝殻コレクターの上に置いた。また、今回は日陰で約4時間干出した果胞子を持たない株3kgも貝殻コレクターの上に置いた。

6月19日、確認板上に盤状体が確認されたため、流水保存に切り替えた。9月21日に垂下連59連(1連につき貝殻コレクター5個)作製した。9月28日、作製した59連を名護市屋我地地先にあるウニ増殖場内の海底に設置した。設置方法は、6m鉄筋(5分鉄筋)5本を平行に約1m間隔に並べ鉄筋で固定し、その間に等間隔に約14連づつ固定した。

3. 結果及び考察

平成18年6月19日、確認板上に盤状体が確認されたため、流水保存に切り替えた。確認板の盤状体を検鏡した結果、かなり大きな

っていた。貝殻コレクター上にも肉眼で桃色した盤状体が観察された。屋外4トン水槽の側面や底面にも盤状体が付着していたが、昨年度に比較すると母藻の量が少なかったため、盤状体の数は少なかった。

平成19年2月21日にウニ増殖場内に設置した貝殻コレクターを潜水観察した。砂に埋まった貝殻コレクターが若干あったため、掘り起こした。多くの貝殻コレクターは、露出していた。貝殻コレクターには、雑藻が繁茂しておりオゴノリの生育は少なかった。

その原因として、オゴノリ盤状体の付着が少なかったため、雑藻が付着して繁茂しオゴノリの生育を阻害したと考えられた。

4. 要約

- (1) クビレオゴノリの垂下式養殖を行うことを目的として、貝殻コレクター採苗を実施した。
- (2) 干出処理により果胞子の放出が促進され、貝殻コレクター上に盤状体が付着したが、母藻の量が少なかったため、盤状体の数は少なかった。
- (3) 海上での育生は、貝殻コレクターに雑藻が繁茂し良くなかった。

5. 今後の課題

- (1) 陸上水槽での長期保存技術の確立
- (2) 海上での早期育苗による芽出し
- (3) 芽出し後の食害対策



①クビレオゴノリ母藻の干出処理



②貝殻コレクターの配置



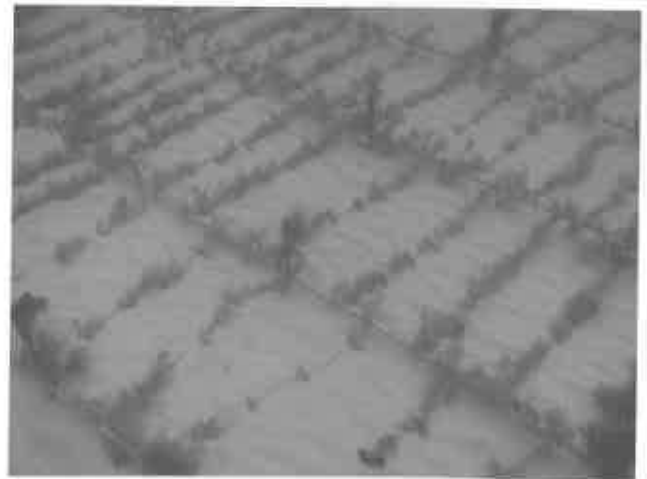
③干出処理した母藻をコレクター上に投入



④コレクター上の母藻



⑤作成したコレクターの垂下連



⑥貝殻コレクターに繁茂した雑藻

1
ジ
に
1
た
て
課
の
る
で
2
(
川
上
で
ン
幹

紳